平成２５年度

# 第２回　鶴 岡 地 域 審 議 会

# 会　議　概　要

期 日 ： 平成２５年８月２日（金）

場 所 ： 鶴岡市役所　議会委員会室

# 平成２５年度 第２回鶴岡地域審議会 会議概要

○ 日　　時　　平成２５年８月２日（金）　午後１時３０分～

○ 場　　所　　鶴岡市役所　議会委員会室

○ 出席委員（五十音順）

稲泉眞彦、奥山春名、後藤輝夫、今野毅、齋藤春子、菅原衛、菅隆、竹内峰子、竹田理英、田村勇次、茅野進、土岐純一、早坂剛、本間仁一、丸山絢子、三浦惇、山田登、横山真二

○ 欠席委員（五十音順）

伊藤俊昭、今間智寛

○ 市側出席職員

企画部長 三浦総一郎、地域振興課長 阿部真一、地域振興課主査 三浦裕美、地域振興課専門員 前田哲佳、地域振興課主任 小野寺善紀、地域振興課主事 富樫智彦

１　開　　会　（午後１時３０分）
２　あいさつ
３　委員紹介
４　意見交換
　（１）鶴岡に移り住んだ方との意見交換
５　分科会（ワークショップ）
　（１）各協議テーマの具体的な方策について
　（２）その他
６　そ の 他
７　閉　　会（分科会毎）

１　開　　会　（午後１時３０分）　進行：阿部真一地域振興課長
２　あいさつ　（早坂剛会長、三浦総一郎企画部長）
３　委員紹介
４　鶴岡に移り住んだ方との意見交換
　次の分科会（ワークショップ）の議論の参考とするため、鶴岡に移り住んだ方３名の方から、自己紹介を兼ねて移り住んだきっかけや移住にあたり戸惑ったこと、現在の生活で感じることなどお話しいただき、それに対して感想や質問等を行った。

５　分科会　（ワークショップ）
　「地域コミュニティ分科会」（座長：山田登分科会長）
　「産業経済分科会」　　（座長：今野毅分科会長）

＜地域コミュニティ分科会まとめ＞
協議や意見
○人口減少について
　人口減少により鶴岡が衰退するという認識や、これから鶴岡に住んでみたいという気持ちを起こさせるための方法がテーマになるのではないか。人口減少を食い止めるには、鶴岡に住みたい、鶴岡に引っ越してきたいという人、また一度鶴岡の人になった人などからずっと鶴岡で生活をしてもらうことを考える。１０年後や５０年後の子ども達のことを考えて人口を増やすことを考える。人口を増やすために市はお金をかける。働く場の確保や人を呼び込むといったいくつかの柱立てをして、役所が民間やＮＰＯ法人などと一緒にやっていく。
　同窓会は年齢に関係なく、平等に皆が鶴岡に来るきっかけになると思うので、同窓会をツールとしたイベントや同窓会への助成制度を考える。

○地域づくり（地域をつくる）について
　人口減少を食い止めるという大きいテーマの基に地域づくりを考える。住んでいる人たちが誇りに思い、良い所なので来て下さいと他の所に声を掛けられるようにするためには、この地域に住んでいて良かったという地域をつくる。それには一人の役員に過重にならないよう分担したり、地域の中にあるいろいろな組織の代表が集まって共通理解を図ったり、１つの団体を再編成して維持していくことも方法の一つとして考えてみる。地域づくりは自分たちの損得でやるわけではないので、地域活性化のため皆から考えてもらうきっかけにする。
　地域おこし、地域づくりを前向きでやっている人がいるが、一部の人だけでなく地域全体、皆で取り組むことがこれからの地域おこしだと思う。山大や公益大の学生などの若い人が、地域に入り込むようにする。人口は子どもから高齢者まで幅広い。よいまちをつくれば子どもが育ち、親たちもまちづくりについて幅広く考えるようになる。支え合っていくまちにすれば素晴らしいまちになると思う。
　住んでいる地域を分かってもらうためＰＲをする。他の地域の情報の集め方もある。鶴岡にはどのような魅力があるのを全国的に知らせないと人は集まって来ない。それから地域の私たちの生活がどれだけ快適で、自分の力でどれだけやれるかから始める。

〇住みやすい地域をつくるについて
　自転車や歩いても暮らせるまちづくりをする。歩道から道路に移る時も車椅子で上がれるような住みよいまちをつくる。皆が取り組もうとした時に力を合わせてやっていく。自分達だけで抱えこまないようにして、世代をきちんとつないでいくことが大事。

〇子育てしやすいまちについて
　日本一子育てしやすいまちだという目標を掲げるため、市民だけでなく企業からも協力してもらう。女性が働きやすい環境をつくるため、時短やフレックスタイム制、育児時間、病児保育といったシムテムを徹底するとか、例えば保育の受付で、子どもが２人以上いる家庭優先するとか、職場や自宅に近いとかという形の受付をしてみる。２人目から保育料無料というシステムにする。学童保育も考えてみる。

〇教育について
　若者には教育が関わってくる。大学だけでなく小学校から将来を見越した教育をして欲しいという願いがあると思う。町内会の集まりの中でも、小学校や中学校の教育をもっと頑張ってもらいたいという声もある。
　地元に誇りもつ若者を育てる。致道館教育を大事にしながら、自然に親しむとか産業を見せるという体験学習や、働くということを子どもに教える。鶴岡の子どもたちはすれ違う前から、にこにことしてあいさつをするが、めずらしいと他の地域に人に言われる。鶴岡は、教育そのものが他と違っている誇るべきまちだ。

〇高齢者に優しいまち、安心して暮らせるまちについて
　福祉関係の施設をつくることも悪くはないが、健康寿命日本一を目指すというタイトルで取り組んでいったらいいのではないか。高齢者が病気にならないよう、介護保険をあまり使わないように、ＮＰＯ法人や地域、にこ・ふるやコミセンなどで、運動することを広げていく。各町にいる体育指導員を使いながら町内会で会議を始める前にストレッチするなどして、体を動かすということをしないと問題は解決しないと思う。高齢者の体が弱ってくると見守り的な制度も必要だが、高齢者を活用する地域づくりや場をつくっていくことも必要。
　地域で市社協のモデル事業をした中で、友達やお茶飲みの人などを記入してもらうアンケートを、日中一人暮しの高齢者世帯全てに実施してところ、７０代で７０代超えの人の名前があがり、いざという時に駆けつけられるかと少し不安を覚えた。向こう３軒両隣の中で補助が出来る仕組みにしないといけない。交通の便が悪いと、買い物や医者に行く手立てがない高齢者の方々には、市の社協と話し合って、おだがいさまのまちづくりをこれからもずっと継続して、自分達で出来る事は自分達で、高齢者の一人暮しに対するサポートを充実させていこうと話している。まだまだ高齢者の一人暮し、家庭には手が伸びていなかったことが現実的に分かってきているので、具体的なものを進めていこうと思う
　この前の水害の時の状況については口コミやテレビのニュースで知った。市のホームページを見ても載っていなかったので、ホームページに今の状況が分かるようにする。災害ダイヤルでは教えてもらえるので、インターネットと電話の両方の部分でカバーできるようにする。高齢者については、緊急や災害等の連絡方法、各家庭に連絡できるような方法手段を考えた方がいいのではないか。

自治会で高齢者に優しいまちづくりという観点から福祉員制度を進めているが、５年もすれば各家庭の構成も変化することから、災害福祉世帯表をつくっているので書き換えをする予定でいる。病気、急病、交通事故といったいざという場合に、一番最初に連絡をしてもらいたい人の住所や電話番号を記入してもらうという形だが、プライバシーもあるので自治会で保管して、緊急の場合はすぐに連絡するという制度で準備をしている。

〇婚活について

市の婚活事業で、つるおか婚活支援ネットワークの応援団体や登録団体の登録数が少ないと思う。鶴岡には多くの業者があるので１００社ぐらいの登録を目指すべき。それにはもっとＰＲする必要がある。子どものうちから、将来は結婚するとか家庭をつくるという意識を持たせなければならないと思う。

一つの自治会だけで婚活をやっても限りがあるし、その地域の若い方々がなかなか集まらない傾向があるので、自治会がまとまって婚活イベントを行う。昔は世話焼きのおじいさんおばあさんがいてそれが普通だったが、そのような役割を自治会で担えれば。

〇若い世代の鶴岡への定着について

若い世代の人たちを、いかに鶴岡に定着をさせるかということが非常に大事で、例えば、ステッカーや、のぼり、手ぬぐい、鉢巻といったもので、市民にアピールして全国的に若い人を迎えるまちだということをしたほうがいいのでは。

〇情報発信について

鶴岡市はＰＲ、情報の進め方がとても遅い。広報も月１回になり内容が薄くなり見ていないという人もいるのでその対応を考える。また今の子ども達はインターネットでＬＩＮＥやフェイスブックを使っている。これから先はそういうツールも大切になってくると思う。情報発信を強くしていかなければならない。

〇空き家について

優良な空き家は再利用して移住する方々から使ってもらう。一人暮しが多くなると近い将来空き家をどうするかということも自治会等と話し合っていかないと、どうにもならない時代が来てしまう。他の自治体では、例えば家を借りるのも何千円というように安く借りられるところもあるので、人を集める方法として格安で貸して、なおかつ食を提供するといったことを考えてみてはどうか。県内のある町では空き家の活用の効果的に上がっているという話を聞いたので、参考にして進めて欲しい。若い人はインターネットで知るというのが主流。それに応えられるような方法で鶴岡市でもどんどん発信するべき。

ＩターンＵターンの３名の方の話を聞いて、鶴岡市は情報発信が足りないと思った。アクセスすればすぐ分かる形に是非して欲しい。廃校になった学校利用として、校舎を壊して宅地にするのではなく、例えば温泉施設にして泊まれるようにするとか、人を集める工夫をして格安で泊まれるようにし、観光として利用するのも一つの手だと思う。美味しい料理がでて、温泉に入れて、先生が起こしに来るようなことがあれば、一度は行ってみたいと思うのではないか。

まとめ

○ 人口減少や鶴岡の将来を考えると、人口が減るということは大変なことだということが一つ大きい課題である。もう一つは、お年寄りから子どもまで住みたい鶴岡、住んでよかったと思えるまちにしていくも大事に話し合いを進めていく。その辺が薄くならない今後も話し合いの中核にしていく。

＜産業経済分科会まとめ＞

協議や意見

○人口減少について

統計上で２０４０年には１３万６千人から９万４千人台に減少すると言われている。約４万人近く減るということは、合併した周辺がほぼなくなる状況だが、周辺はゼロにはならない。そうなった場合、旧市内を中心に集まってくると思われるので、商売などの将来の産業構造も変わると思う。

自然減少と社会減少とあるがどこで止めていくかが重要。１５歳から２４歳は学生が転出しているから落ち込みが大きい。２５歳以上は増え方が少ないのは就職が関係していると思う。人が出て行くのをできるだけ防ぎ、増やしていく方法を考える。今、どう増やすかということが中心になっているが、いた人間がいなくなるとことを防ぎながら考えていくべき。

○地場産業、後継者について

山に生息できる環境を整えてこなかったことが、鳥獣被害の要因の一つだと思う。山を若返らせるには間伐。それから山の木材の活用について住宅への活用以外も考える。山からお金を得ることが出来れば、人も山に行き雇用も生まれる。全てにつながっていく。

地場産業の後継者の育成で、農業に絞っての後継者育成で進めるということもあるが、林業や漁業、伝統工芸の視点も加えてはどうか。メンバーの所属団体等を考えれば、限定せずに鶴岡の地場産業は何かなど、出来る限り取り入れた表現にしたい。

海や漁業について、地元ではなく都市の人の視点で企画する。例えば、船の入港から魚の水揚げや市場の風景をみてもらい、都市部の人たちとの交流の中で、海は素晴らしいという魅力を発信できればと思う。水産業も農業と同じく食糧産業なので、庄内の魚をいかに食べてもらうかが一番であり、庄内に来て美味しいものを食べてもらわないと、次につながらないので、庄内全体で考えていかなければならない。

三瀬海岸で夜光虫を見る会をしていたがそれも海の資源。子どもたちがとても喜んでいた。

○移住・定住について

移住や定住の対象者で、若者、子育て世代、リタイア世代とした場合で、それぞれで支援が違ってくる。若者は雇用の場があれば定住するし、昔から住んでいる若者にも雇用の場があることは大切。ＵターンやＩターンの子育て世代なら起業への支援。都心部で会社を定年された方、５５歳ぐらいで早期退職される方など、リタイア世代が来ることも想定した支援として、特に積雪や冬場の生活への対策が必要。

○情報発信、ＰＲについて

実際に移住した人の声を直接訴える場があれば、移住をしようと考えている人には最初のきっかけになる。それにはインターネットが一番。県外から来た人、若者で定住を選択した人、戻ってきた人など、いろいろな声を集めたものを、インターネットでの発表の場として、市のサーバーを使わせてもらいながら意見を発信してはどうか。いろいろな形で移住、定住をした人の声をまとめたものを、それぞれ出していくというのは一人ひとりが出きること。移住のきっかけを知る最初の第一歩としてやってみる。市がやるのではなく、実際に移住した人たちの目で意見を発せられる場があると、押し付けではないＰＲができるのではないか。

フェイスブックの話しがあったが、移住者だけでなく、今ここにいる人たちの意見を集約する場や、集まった人たちの意見を前向きに発信していったらいいのではないか。市のホームページを見ればということでなく市民運動的な部分として考えてみる。

〇個人で出来る取り組みについて

鶴岡に来たばかりの人と知り合いになったら仲良くなる。フェイスブックで県外出身者のグループをつくり、集まって情報交換しようといったことをしている。外から来た人には心強いと思ので、県外から来た人がいればフェイスブックの仲間に入れる。

１泊でも２泊でも、自宅でも近くの旅館でもいいので、自分たちの好きなところを案内する「マイツアー」というようなことをすれば、また鶴岡に来たいという人は必ず現れる。良いツアーを考えて実行した人に賞などやったりすれば面白いと思う。ここに住んでいる人が鶴岡に来てもらう機会を自分の手でつくり広げる。来てもらうことが大事。

〇団体や組織で出来る取り組み

集落に加工グループがあり、農産物関係を産直などで売っている。真空パックの機械あるが制限があるので何でもとはいかないが、年配の方の憩いの場や情報交換の場や楽しみごとの一つとなっている。

〇雇用、就業状況について

高校生も進学が多く県外に目が向いている。四大卒の女子学生がこちらに帰ってきて地元就職が多くなると、高校生たちの職場少なくなる傾向になる。地元の子どもたちの就職が少なくならいように、就職して１年から３年目くらいの社員から体験発表してもらっているが、とてもいい影響がある。若い人に職場説明会といった場面で、複合的に結び付けていくような仕掛けは必要。自分たちの生まれ育った環境しか知らないので、外にいた人の目線と外から見た地域の職業について、市と各団体が一体となって取り組み、目線を地域に向ける機会をつくる必要がある。今、年収２００万円とか３００万円と言われていて、非正規社員という状況がある。これは結婚問題にも関係してくる。若者が戻ってくるには、雇用条件と安定した職場の確保について考えなければならない。

〇空き家の活用について

山間部の住宅の活用だけでなく、例えば、市内の商店街の空きスペースも活用する部分の対象として、職場の職という部分での活用を考えてみる。

こちらに来た人たちに対しての住宅の提供として、空き家をある程度直して売ったり貸したりするようなところまで、民間ベースなのか分からないが、これからは行政としてやって

いかなければならないと思う。転居した後の空き家がぽつぽつとあるのを見て、登録制度のようにして遊休農地の利用と空き家と一元管理して紹介してはどうか。中山間地域から移転した人が、また中山間地に住むというのは確率的に低いと思う。田川や豊浦などには別の魅力がある地域だと思うので、農業でない部分で考えてもいいのではないか。

〇子育て、教育、学校について

子育ても含めての地域としての良さは何か。ＩターンやＵターンした人は子育てには良い地域と言っていたが、子育ての教育環境はどうか。学校が統合になると、せっかくの良い場所がなくなってしまう。子どもが少ないと先生も少なくなるが、小人数でやれる良さ、少人数の環境の中で出来る勉強がある。都会からわざわざ来て住んで、環境の良い学校に通わせたいという人も多い。テレビで加茂小学校の遠泳のニュースが出ていた。昔から毎年やっている。海のある小学校でしかできないこと。親子が一緒に一生懸命泳ぐといった記憶がすごく良い。これはマンモス校では出来ないこと。

〇他の自治体の事例や取組みから

篠山市での古民家をリフォームするやり方がある。例えば大きな道路をつくるだけでなく、裏道には何があるかを知って道路をつくることも、行政も含めて考えてみる。千葉県流山市の取組みで、保育や教育をセールスポイントにしている。一人暮らしになった高齢者が集合住宅に入居して、空き家をリフォームして若い世帯に賃貸することをしていきたいなどあった。福島県磐梯町の十何人の小学校を見学したが、雪が多いが親に送り迎えをさせないで子どもだけで歩いて通学させ、先生と親が協力して子どもたちを見守る体制だった。若者子育て住宅をつくり入居者を募集している。学校だけでなく、住宅まで考えてトータルでやるような仕組みは大事。

〇鶴岡の魅力　シティーセールスについて

何を食べても美味しいと多くの人は言うが、食べ物だけでなく、山、伝統的な職業、そして空き家も、点在している場所や状態、またはリフォームが出来るかなどを整理して、プロモーションを考えていく。鶴岡の魅力とは何か。食のことだけでなく、何をシティーセールスするかという部分で、いろいろな分野を取り入れて考えていく。

〇交流人口について

昨年友人たちから赤川の花火を見てもらった。話しを聞いた別のグループが今年来る事になった。別の友人は４０人位のサークルでバスで鶴岡に来て、湯殿山、大山の下池、鶴岡公園の周辺などを巡りながら創作をするツアーをしている。最近は鳥海山、湯殿山、六十里越街道といったトレッキングが多。また、全国俳句大会の選者について東京から何人も来ることはいい交流人口になる。旅行の形態が変わってきて、ただ見て回るだけではなく、芸術的、文化的な要素を含んだツアーはコンセプトがはっきりしていていいと思う。